

C-20 衣服設計に関する基礎的研究 — 静岡市内の3才児・4才児の体型 —
静岡女大家政 河村房代

目的 衣服設計に関する基礎研究としての3才児の身体計測値についてはまだ発表されていない。私の研究室では既に4才から60才代までの同じ目的のための身体計測を行い一連の基礎研究をしてきたが、4才児については人数が不足してその結果が得られていない。そこで1974年8月静岡市在住の健康な3才児・4才児男女計217名の身体計測を行いその体型の特徴を明らかにした。

方法 資料は静岡市内の8つの保育園児について長径11項目、周径8項目、体表にそつた長さ4項目、皮下脂肪厚、体重の計26項目の計測値を基とし、上肢長、下肢長、ローラー示数、身長・胸囲と尺度とした示数値13項目を算出して考察を試みた。

結果 1. 長径周径共に成長は著しく殆どの項目が男児が優位である。下半身は性差は少い。腰囲>胸囲>頭囲>腹囲であるがこれらの差は少なく特に腰囲と胸囲、頭囲と腹囲の差は僅少である。年間増加量も殆どの項目が男児の方が大きく腹囲・腰囲・上腕最大囲・大腿最大囲は女子の方が大きい。

2. 身長に対する長径項目の割合は全頭高を除いて増加し、胸囲に対する周径項目の割合は減少する。即ち3才では頭の大きな(頭身示数48)下肢の短いずんぐりした体型であるが4才ではやゝ細身になる。また女児の方がまよみをおびた体型である。

3. ローラー示数は3才約1.75、4才約1.58であるが標準体重・上腕部脂肪厚をも考慮して一応肥満児として判定されてもよいと思われるものは男児3.7% 女児1.8%であった。